

一方東部に於ては川崎葺合工場も突如この日より休業となりたること、て脇の濱の海岸に約千五百名の集團を作りこれは海水浴に興じむたるが警察當局は正午過ぎこの集團に對しても解散を命じたり。此の日會社側重役と行ふべき等なりし會見は職工側は都合に依り延期する事となり、正午交渉委員の名を以て同社小高根秘書に對し其の旨通告せり。

一方要求提出六回に及び結局孕石所長より「自己の権限に依り採決する能はず」と列付せられたる三菱造船所職工代表委員は愈々東京本社へ肉薄する事に決し十四日來委員を電機、内燃機合併の下に選出し十五日朝來上京委員と在留委員間の聯絡或は諸般の打合せ等に忙殺されるたるが豫定の如く同日午後七時半神戸驛急行列車にて東上せり。是より先き行を旺にすべく多數職工神戸驛頭で集合、上京委員を迎へて労働歌を高唱し歩廊には在留委員と上京委員との堅き握手が交され職工團を代表せる久留氏は「上京委員に告げる。我々一萬の職工は代表として諸君を送る。晴れやかな此の戦の戦の前途に際して諸君の健康を祝すと共に重大なる三菱一萬の職工の代表として諸君の決死的奮闘を祈る」と送別の辭を述べ、中村委員は眉宇に斷乎たる決意を示し「此の盛大なる而も熱誠なる見送りに對しては吾々深謝の二字を以て報ゆるの外はない。微力乍ら上京後は出來得る限りの力を盡し奮闘する覺悟である。諸君の期待に添ふべき土産を得るまでは吾々一行は諸君に再び見えざるの決心である。幸に一行の意を諒せられ自重して今後の情報を待たれよ」と答へ終るや歩廊に溢れむ許りに詰蒐けたる見送りの

の職工は一齊に萬歳の聲を浴びせ掛けたり。斯くて「確かり頼むぞ」宜しいの應答の裡に七時三十分、發車の汽笛と共に委員は勇ましく東上の途に就きたり。

一方職工側は一切の示威運動を固く封せられし結果として持久戦は専ら言論戦に依らざるべからざるに立到りたれば盛に演説會を開催し志氣の鼓舞を策したり。十五日には午後二時半より勸業館に於て神戸労働者聯合團主催の労働問題演説會を開かれたるが臨時の演説會として聴衆も二百人許りに過ぎず、行政氏其他數氏の演説ありて解散せり。尙同夜六時半よりは其第二回演説會開かれ聴衆數百の拍手を浴びつゝ木村錠吉氏、行政長藏氏熱辯を振ひ最後には賀川豊彦氏は「産業の戦争はサーベルや鐵砲では壓する事が出來ぬ。現在の争議は大昔の戦争と同様だ」と永留川崎重役の態度を罵倒し午後十時閉會したり。尙同日午後一時兵庫明治座に催されたる川崎造機部主催の演説會も多數の聴衆を得て頗る盛會なりき。

十六日には三菱、川崎兩社罷業團聯合にて摩耶山に登山遠足會を催すべく、既に前日より葬禮道の善光寺前に集合の豫定となり居たるが、何分同一個所に多數の職工を集合せしむる事は混雜も伴ふ事、幹部等も之を憂慮し前日通り川崎にありては造機、製罐部は大倉山、電氣部及造船部は會下山、東山遊園地、兵庫工場は假留監跡、三菱は和田宮神社境内及遠矢小學校運動場に集合する事に決定したれば、職工等は何れも午前七時頃までに夫々參集したるが、當日の缺席者は極めて少く三菱の如き